



マブチグループ
社会・環境報告書 2011

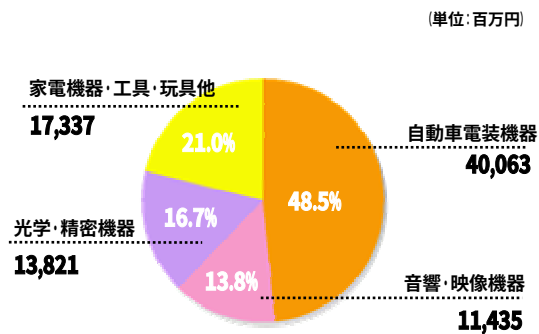
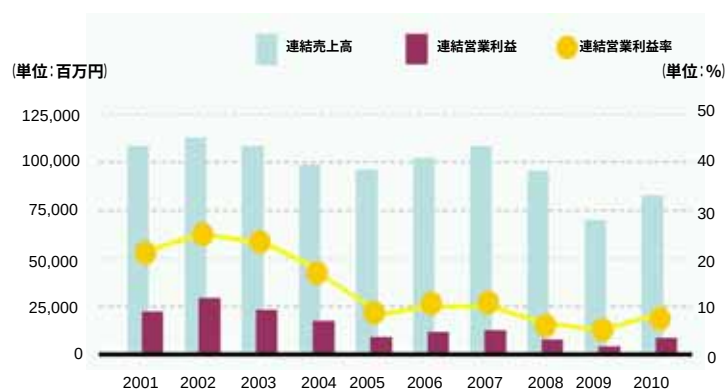
会社概要

■ 商 号	マブチモーター株式会社 MABUCHI MOTOR CO.,LTD.	■ 従業員数	本社:748名 グループ:37,466名
■ 創立年月日	1954年1月18日	■ 本社所在地	千葉県松戸市松飛台430番地 〒270-2280 Tel:047-710-1111 (代表)
■ 事業内容	小型モーターの製造販売	■ 技術センター	千葉県印西市竜腹寺280番地 〒270-2393 Tel:047-710-1222 (代表)
■ 資本金	207億481万円		
■ 代表者	代表取締役社長 亀井慎二		

<2010年12月末現在>

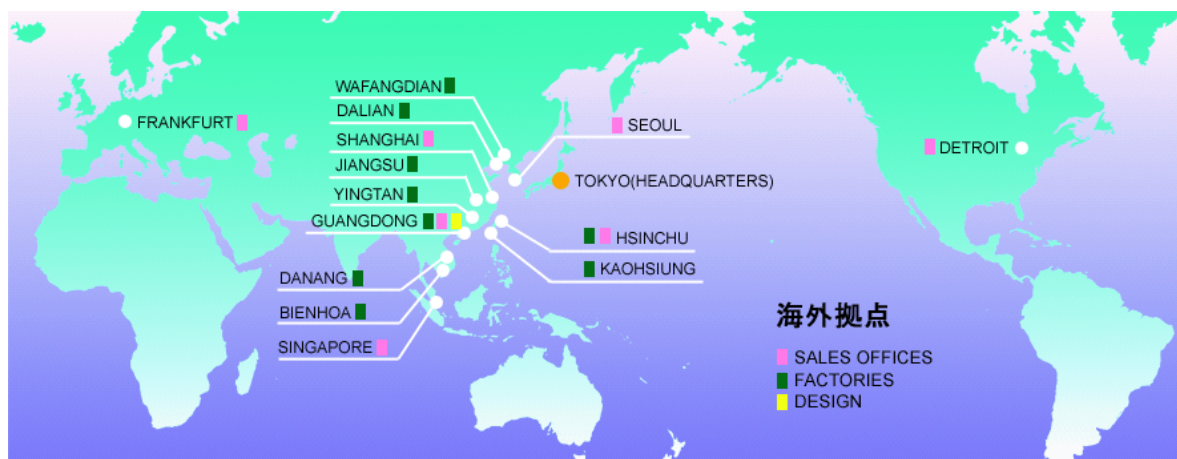
連結売上高・連結営業利益・営業利益率の推移

用途市場別売上比率



<2010年12月末現在>

ワールドワイドネットワーク



<2010年12月末現在>

CONTENTS

マブチモーターの全体像

■ 会社概要	01	■ 目次	02	■ トップメッセージ	03
--------	----	------	----	------------	----

社会性報告

■ コーポレート・ガバナンス	05
■ コンプライアンス	06
■ 活気のある職場づくり	07
■ ものづくり教育に対する支援活動	09
■ 小学生に対する教育支援活動 (本社)	10
■ 海外拠点の教育支援活動	11
■ 地域支援活動	12

環境報告

■ 環境マネジメントシステム	13
■ グリーン調達	14
■ 環境にやさしい製品づくり	15
■ 地球環境保全のためのボランティア活動	17
■ 社内緑化推進によるCO ₂ 排出量削減の取り組み	18
■ 環境コミュニケーション	19
■ リスク管理の取り組み	21
■ その他の環境報告	22

編集にあたって

当社は2001年に「環境報告書」の発行を開始し、2008年からは、報告書のタイトルを「環境報告書」から「社会・環境報告書」に変更いたしました。掲載内容も当社の地球環境保全のための環境活動実績に加え、社会貢献活動実績も含めるように拡張いたしました。

本報告書を通じて、当社の企業市民としての社会的責任を果たす姿勢や状況について、ステークホルダーの皆様へ説明責任を果たして参ります。

なお、環境への配慮の観点から、印刷物ではなく、電子化 (PDF) した資料をホームページに掲載しています。

報告期間／対象範囲について

対象期間

2010年度 (2010.01.01～2010.12.31)

対象組織

マブチグループ

[本社]

日本 ・マブチモーター株式会社 (本社)

[生産拠点]

中国 ・萬寶至實業有限公司 (香港マブチ、広東工場)
 ・万宝至馬達大連有限公司 (大連マブチ)
 ・万宝至馬達瓦房店有限公司 (瓦房店マブチ)
 ・華潤電機 (江蘇) 有限公司 (江蘇マブチ)
 ・万宝至精工 (東莞) 有限公司 (路東マブチ)
 ・万宝至馬達 (鷹潭) 有限公司 (鷹潭マブチ)
 ・万宝至馬達 (東莞) 有限公司 (東莞マブチ)

台湾 ・華潤電機工業股ン有限公司 (台湾マブチ)
 ・萬寶至馬達股ン有限公司 (高雄マブチ)

ベトナム

・MABUCHI MOTOR VIETNAM LTD. (ベトナムマブチ)
 ・MABUCHI MOTOR DANANG LTD. (ダナンマブチ)

[販売拠点]

・万宝至馬達 (上海) 有限公司 (上海マブチ)
 ・万宝至馬達貿易 (深セン) 有限公司 (深センマブチ)
 ・華潤電機工業股ン有限公司 (台湾マブチ)
 ・MABUCHI MOTOR AMERICA CORP. (アメリカマブチ)
 ・MABUCHI MOTOR (SINGAPORE) PTE.LTD. (シンガポールマブチ)
 ・MABUCHI MOTOR (EUROPE) GmbH (ヨーロッパマブチ)
 ・MABUCHI MOTOR KOREA CO.,LTD. (韓国マブチ)

対象範囲

モーターの設計、製造、販売、サービスの提供に関わる環境活動及び社会貢献活動の内容

発行

2011年6月 (次回発行:2012年6月予定)

このたびの東日本大震災により被災されました方々に、心よりお見舞い申し上げます。
被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



今、これから、
私たちがやるべきことを

代表取締役社長 **亀井 慎二**

当社の2010年における社会貢献活動や環境活動の実績をまとめた2011年版「社会・環境報告書」が完成しましたのでご覧いただきたいと思います。

このたびの大震災は日本の国土に大きな傷跡を残しましたが、一方で普段は意識する事のなかった日本人の持つ勇気や団結力、心の温かさを再認識させてくれました。復興には何年もの歳月を要すると思われませんが、日本人にこうした精神がある限り、しばらくは、厳しい時が続いたとしても、必ず復興をやり遂げられると確信しています。また、この大きな試練は我が国に災害復興にとどまらない大きな『変革』を求めているように思えてなりません。今、私たちがやるべき事は何かを真摯に考え、一つひとつ前に進んでいきたいと考えております。

CSRへの取り組みについて

当社は、経営理念である「国際社会への貢献とその継続的拡大」を実現するために、お客様にご満足いただける企業づくりに努めています。競争力の源泉となる製品やサービスの品質が大切なことは言うまでもありませんが、『誠実な企業活動こそが永続的な企業価値の拡大に繋がる』という基本的な認識を深め、社会的責任のあり方を重視し、環境保護に努め、透明性の高い事業活動を行うことが、その根幹になければならないと私は考えます。

『企業の社会的責任』は、倫理観と誠実性を第一義とし、持続的に利益を生み出すことのできる会社を作ることだと思います。大地震の影響により日本全体が不安を抱え、世界経済も混迷している中で、目先の利益拡大のみを追い求めるやり方には賛同できません。企業の目的は、本来、会社を構成する人々の幸せのためにあると考えます。それを実感として感じられる環境をつくり、永続することによって雇用を守り、社会に貢献していくのが真のCSRだと思っています。

今後も、皆様からの信頼に応えることができるよう、より一層の経営体質の強化に取り組み、社会的責任を果たして参ります。

地球環境への取り組みについて

原子力発電所の事故により、電気の供給が不安定になっています。この影響で、企業は昨年の使用最大電力の値から15%削減した値を上限として、今年の使用電力を制限されることとなりますが、これまで削減努力を重ねてきた数値のより一層の削減は大変厳しいものとなります。

こうした環境下、従来の手法では技術的課題や品質確保問題のために着手が困難であったテーマにも積極的に取り組んでまいります。具体的には、生産革新センターが中心となり、生産性向上、歩留り向上など、基から良くするものづくり、また製造現場での豊富な経験を活かした、より環境負荷の少ないものづくりを目指しています。

当社は、このように社会や環境を強く意識した健全な企業体質を強化し続け、誠実な企業活動を行い、社会的責任を果たすことで、皆様から信用され必要とされる企業であり続けたいと考えております。社員一人ひとりが、企業は社会に貢献するために存在し、社会への貢献とは人々の幸せに寄与することであるという認識を持って活動して参ります。

ぜひこの報告書をご覧ください、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

今後とも皆様の温かなご理解とご支援のほど、よろしくお願いいたします。

経営理念

国際社会への貢献とその継続的拡大

経営基軸

1. より良い製品をより安く供給することにより、豊かな社会と人々の快適な生活の実現に寄与する
2. 広く諸外国において雇用機会の提供と技術移転を行い、それらの国の経済発展と国際的な経済格差の平準化に貢献する
3. 人を最も重要な経営資源と位置付け、仕事を通じて人を活かし、社会に役立つ人を育てる
4. 地球環境と人々の健康を犠牲にすることのない企業活動を行う

経営指針

1. 汎用性を重視した製品を開発し、その最適生産条件を整備する
2. 価値分析に徹した製品の開発改良と部品・材料の共通化を徹底する
3. 高度加工技術とムダの極小化によるコストダウンを追求する
4. 新市場を開拓し適正占有率を確保する
5. 適材適所による人材の活用と業務を通じた人材育成を行う
6. 環境負荷の極小化と安全の追求を基本とした企業活動を推進する
7. 長期安定的視点に立つ経営施策を推進する

コーポレート・ガバナンス

当社の基本的な考え方

当社は、小型モーター事業を通じた「国際社会への貢献とその継続的拡大」を経営理念に掲げ、その実現にこそ存立意義があるものと認識しております。

- ① 経営上の意思決定と効率的な業務執行が明確な区分をもって行われ、責任の所在が明らかなこと
- ② 適切な内部統制システムが構築され、運用されていること。すなわち、内部牽制システムと経営監視体制が有効に機能していること
- ③ 一般株主と利益相反のおそれのない独立役員が相当数選任され、経営監視機能の客観性及び中立性が確保されていること
- ④ 企業文化として、企業倫理とコンプライアンスの実践が、組織の社会的公平性を支え、すべてのステークホルダーに対する信頼と期待に応える基本であるという認識がグループの全員によって共有されていること
- ⑤ 株主をはじめとするステークホルダーに対し、適正、公平、適時、明瞭に企業情報の開示を行うとともに、取締役会・監査役会等によるアカウンタビリティが確保されていること

当社は、これらが確実に実践されるための各種機能をより充実させていきます。

体制・システムの構築

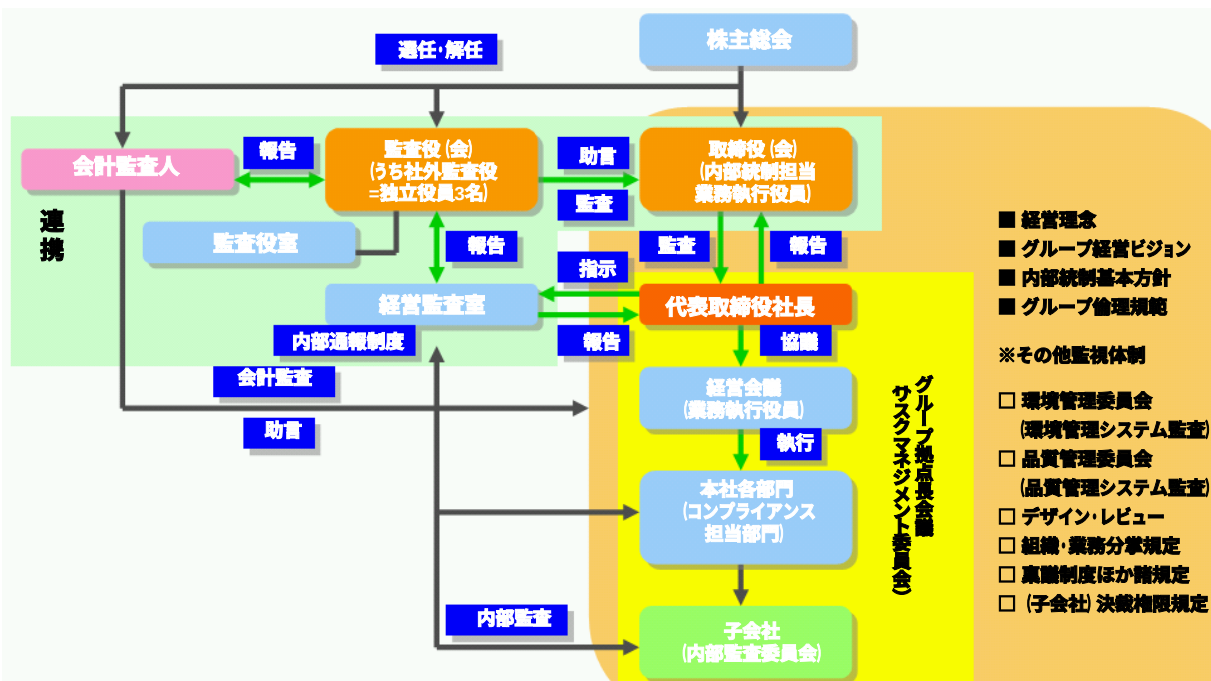
当社は、監査役制度を採用しており、会社法に規定されている会社の機関（独立役員を含む）、会計監査人等が、それぞれ法令に基づく機能を果たし、加えて当社独自で設置する経営会議、経営監査室（内部監査部門）その他の業務執行や内部牽制に係る組織によって当社ガバナンス全体の体制とシステムを構築し運営されています。

海外拠点においても、それぞれの国の法令等に基づく機関や当社の内部組織によって内部統制が実施されています。

グループ経営ビジョンを通してグローバルに企業文化や価値観を共有するとともに、海外拠点経営者会議をはじめとするマブチグループ全体の会議の開催や経営監査室による海外拠点の業務監査の実施などにより、マブチグループ全体の内部統制機能の向上に努めています。

また、当社は「内部統制基本方針」を制定し、リスクマネジメント体制やコンプライアンス体制の更なる強化、充実を図っています。

コーポレート・ガバナンス体制（模式図）



コンプライアンス

小冊子「マブチモーター倫理規範」

当社は、経営理念として掲げる「国際社会への貢献とその継続的拡大」を実現していく上で、各国・地域の法令・条例・規則などを遵守するのは勿論のこと、社会から求められる企業倫理に沿った事業活動を行うことを大前提としています。

そのため、それらの行動や判断の基準を定めた小冊子「マブチモーター倫理規範」を発行し、本社全役員・社員に配付しています。同冊子は、時代とともに変化するビジネス環境に適応するため、2006年に初版発行した記載内容を見直し、その後社会的要請が強まった事項等の充実を図り、新版「マブチモーター倫理規範」を2009年年初に発行、全社員に再配付しました。

倫理規範の中でも特に重要な項目については、ルールや手順を整備し、また、必要な対象者に教育・研修を行い、その周知徹底を図っています。

海外拠点に関しては、2010年10月に中国拠点において拠点管理職以上を対象に研修会を実施し、会社としてコンプライアンスを重視した経営を目指していること及び新版「マブチモーター倫理規範」の周知徹底、さらに、「秘密保持及び機密保持」、「贈収賄と商業賄賂」といった個別テーマについての教育を行い、コンプライアンス意識の向上を図って参りました。

また、継続的に本社の内部監査部門が、コンプライアンスに関するルールや手順の遵守状況、その他の倫理に反する行為等について、全海外拠点を含め、定期・不定期に監査を行い、その結果を経営トップに報告しています。



コンプライアンス教育の様子(大連マブチ)

加えて、一部海外拠点においては、内部監査部門を設置し、コンプライアンスに関する監査結果が定期的に報告されています。これらの仕組みにより、経営トップが、正しく幅広い内部情報を把握することができ、適切な対応を可能としています。

倫理規範ホットライン

コンプライアンスに関する情報の伝達や相談について、通常のルート(上司や組織部門の窓口など)とは別に、内部監査部門が管理する匿名性が担保された「倫理規範ホットライン」を設置しています。

また、この制度の利用の如何に拘らず、公益通報者保護法を遵守し、相談者の不利益を発生させないことを会社が約束するトップメッセージを、役員を含む全社員に発信しています。

当社は、お取引先様とは日頃から誠実で公正なお取引引きと相互信頼関係の構築に努めていますが、社会的な不祥事が多発している情勢に鑑み、問題発生への未然防止ならびに拡大防止体制を強化するために2008年より、「倫理規範ホットライン」の対象範囲を、社員のみならずお取引先様の一部に拡大しています。

【倫理規範基本方針(概要)】

1. マブチグループのすべての役員・社員は、会社の利益や業務に優先して、会社所在国・地域の法令・条例・規則及び国際ルールを守ります。
2. お取引先様をはじめ、株主・投資家、地域社会など広範な利害関係者への責任を十分認識し、社会倫理に反する行為を厳に慎みます。
3. 法規制、社会倫理の中でも特に注意を要する事項に関しては、規程類などに明確に記載し、周知徹底を図ります。そして、すべての役員・社員は、これらを誠実に守ります。

活気のある職場づくり

当社は、「人を最も重要な経営資源と位置付け、仕事を通じて人を活かし、社会に役立つ人を育てる」を経営基軸の一つとし、人材育成方針として、会社だけではなく「社会＝国際社会」に貢献できるような社会人・国際人の養成を目指しています。

企業活動を通じて、国際社会の進歩と発展に寄与することこそが、当社が存在する意義と考えています。

人材育成プログラム

学習する組織風土の醸成と専門知識・技術レベルの向上を目指し、専門教育の充実を図っていくために、各部門において早期にスペシャリストを育成するための教育体系を整備しています。

人事評価制度

当社の人事評価制度は、会社業績に貢献するために社員の力を結集させていくマネジメントのツールですが、人材育成のツールとしても積極的に活用しています。

その評価制度は、業績の最大化を目指して様々な役割を果たす社員個人の貢献を的確に把握し、会社の成長と社員の成長がともに実現できることを目指し構築されています。

社員の貢献度を的確に評価へ反映させるためには上司と部下のコミュニケーションが大切と考え、日常的な会話だけではなく、中間、期末評価面談を制度として設け、密なコミュニケーションを図るようにしています。

家族参加型イベント ガーデンパーティー



2010年秋

本社では経営者と社員、さらにその家族までもが有機的なつながりを確立し、結束力を強め、心を通じ合わせることが重要と考え、毎年秋に、本社グランドにて、家族を招待し、「ガーデンパーティー」を開催しています。

自己申告制度

社員一人ひとりのやる気と能力を引き出し活用するためには、「適材適所」と「職場風土醸成」が重要です。それを検討し実現する上での必要情報として、社員の職務に対する意識を把握することを目的とした定期的な社員の自己申告を実施しています。

資格取得奨励制度

社内に「自ら学ぶ風土」を醸成し、業務遂行に役立つ知識を幅広く習得することを狙いとして「資格取得奨励制度」を設け、自己啓発を促進しています。

短期実務交流制度

マブチグループ全体の一体感醸成、総合力アップを狙いとして、海外拠点の人材を積極的に本社に派遣し、実務交流を図る「短期実務交流制度」を、2009年から実施しています。

具体的には海外拠点スタッフの本社への出張機会を意識的に設け、実務を通じた交流により、考え方の共有・協働意識の醸成を促しています。今後もこの制度を充実させながら、継続的に実施していきます。



海外拠点からの出張者と社長による記念撮影

心と身体の健康への取り組み (本社)

社員の心と身体の健康が、社業への貢献及び社会生活の基礎と考え、20年以上前よりメンタルヘルス調査を実施するとともに、社内カウンセラーを設置し、「心の健康」維持に取り組んできました。また、人間ドックを受診希望する35歳以上の社員に対し、受診費用の3分の2を補助しています。その他、生活習慣病予防のための「社員健康教室」を定期的に開催しています。



社員健康教室 (本社)

ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

「ワーク・ライフ・バランス＝仕事と生活の調和」を保つために、次のような取り組みを行っています。

厚生労働省が奨励する「ファミリー・フレンドリー施策」(下表)を展開し、仕事と育児・介護が両立できるような環境を作っています。また、同様の趣旨である千葉県主催の「社員いきいき！元気な会社宣言」活動にも賛同し、2008年に、宣言企業として登録をしました。

ファミリー・フレンドリー施策の概要

1. 社員が仕事と子育てを両立できるよう法定を上回る「子が3歳に達する日まで育児休業の取得を可能」としたのをはじめ、育児休業中の社員に対し、「賃金の一部支給」及び、「育児休業中の自己啓発支援」などを導入
2. 子育てに関する支援としては、「不妊治療のための低利融資制度」や、「配偶者出産時休暇制度(有給休暇5日間)」の導入及び、「ベビーシッター育児支援割引券の利用」などの制度を導入
3. 社員が仕事と介護を両立できるよう「一つの要介護状態につき2回まで、合計365日間の介護休業取得を可能」としたことをはじめ、「介護休業中の自己啓発支援」や「勤務時間短縮や所定外労働免除等の措置の導入」及び、「介護クーポン(介護支援割引券)の利用」などの制度を導入

マブチグループにおける活動

マブチモーターの海外拠点においても、社員としての基本的権利を尊重し、適切な処遇を保証するとともに、社員が働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいます。

大連マブチは大連開発区に在籍する外資系企業の中で、もっとも早く組合を成立した企業です。以来、組合を通じて、社員の雇用、給与及びその他の権利(福利厚生)が保障されています。



労務協議会 (大連マブチ)

東莞マブチは社員の愛社心及び一体感を育成するため、定期的に社内スポーツ大会を開催しています。



バドミントン大会 (東莞マブチ)



ABUロボコンでの表彰風景

ものづくり教育に対する支援活動

当社は、青少年をはじめとする多くの人々に「ものづくり」の大切さ、素晴らしさを体験するイベントを通して、未来を担う若き技術者の育成と科学技術の発展に寄与する支援活動を行っています。

ロボットコンテストへの協賛

当社は、継続的に「大学ロボコン」「ABUロボコン」「高専ロボコン」に協賛し、大会運営支援やモーターの提供などを行っています。この協賛により、世界中の学生に「ものづくり」の楽しさ、大切さを体感していただき、ここから未来を担う技術者がたくさん生まれてほしいと願っております。



大学ロボコン

2010年6月、国立オリンピック記念青少年総合センター（代々木）にて、『NHK大学ロボコン2010』が開催されました。書類やビデオ審査を突破した20校が、マシンを駆使して熱戦を繰り広げた結果、3年ぶりに金沢工業大学が優勝しました。マブチモーター賞は、自動ロボットの変形が素晴らしかった『東京農工大学』への贈呈となりました。



ABUロボコン

2010年9月、エジプトのカイロ国際スタジアムにて、『ABUアジア・太平洋ロボットコンテスト2010エジプト・カイロ大会』が開催され、各国から集まった多くの学生が熱戦を繰り広げ、中国電子科技大学が優勝しました。マブチモーター賞は、予選を通過できなかったものの善戦した『(インドネシア) スラバヤ電子工学ポリテクニク』への贈呈となりました。



高専ロボコン

2010年11月、両国国技館にて、『高専ロボコン2010』全国大会が開催され、地区大会を突破した25校が、熱戦を繰り広げました。優勝は鹿児島高専、ロボコン大賞は、仙台高専（名取キャンパス）となりました。マブチモーター賞は、10名の高専生が乗っても歩くことができるというパフォーマンスを見せた『長野高専』への贈呈となりました。

小学生に対する教育支援活動(本社)

理科出前授業教育

「社会人講師活用型教育支援プロジェクト」(平成20年度経済産業省委託事業)の主旨に基づき、社会貢献活動の一環として、本社社員による出前授業推進チームを発足、継続的に活動しています。

2010年は、小学生だけではなく、千葉県教育研究会理科教育部会の『今後の理科指導の参考にしたい』とのご要望に応え、小学校の先生を対象に、理科授業の研修会を開催いたしました。



史料館「親子見学会」

教育支援の一つとして、地域住民に学び感じていただく場を提供することを目的に、本社敷地内にある「マブチ史料館」に、松戸市在住の親子をご招待し、特別に公開いたしました。

館内の説明を小学生向けにわかりやすくアレンジし、マブチの歴史を学び、ものづくりに対する思いや、夢を持つことの大切さを肌で感じることができる企画にしています。

夏休み工作教室

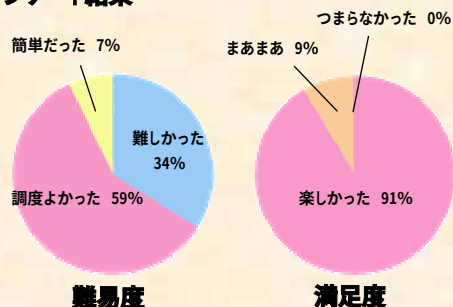
2008年から「夏休み工作教室」を開催しています。2010年度は6回開催し、各回24組の親子と一緒に、モーターが電動機(回転する)だけではなく、発電機(発電する)にもなる事を学び、実際に『手回し発電の横二輪バイク』を作りました。



TOPIX ～夏休み工作教室～

「夏休み工作教室」では内容のさらなる充実を図るため、実施後のアンケート調査を行っております。下記はアンケート結果のほんの一部ですが、ご紹介いたします。

アンケート結果



感想

- できあがったときはすごくうれしかった。
- 自分で作ったものがきちんと動いてうれしかった。
- 工作を作った後、動かすのが楽しかった。
- もっと難しい工作を作ってみたい。
- 難しかったけど、一つひとつ先生の話をよく聞いてやったら、簡単だった。
- また来年も参加したいです。楽しかった！！
- 他のおもちゃを作りたい。発電のことをくわしく調べたい。
- モーターが使われているところがたくさんあったのをはじめて知りました。
- 電池がなくても、モーターが動くこともわかりました。



海外拠点の教育支援活動

海外拠点においても、それぞれの地域で教育支援活動を実施しています。



現地技術専門学校への奨学金授与式
(ベトナムマブチ)



ダナン外国語大学へ日本語の圖書を寄贈
(ダナンマブチ)



日本人学校で開催されるバザーへ
モーターと工作ガイドブックを提供
(ヨーロッパマブチ)

野球教室

2010年6月、大連マブチの協賛・協力により、日本から元プロ野球選手の講師を招いて、大連瓦房店市間屯万宝至希望小学校^(※)、大連市李家街小学校児童を対象にした野球教室が開催されました。

この活動を通じて、日中両国民の友好を深め、当社と大連地区の交流に良い効果がもたらされることを期待しています。

尚、この野球教室は、地元の新聞などでも大きく報道されました。



※大連マブチが2001年に建築支援を行った小学校

教育支援

大連マブチは、1996年から地域の小学生から大学までの生徒に対して、校舎の建設や奨学金の支給などの教育支援活動を行っています。



奨学金制度が適用された学生達

地域支援活動

マブチグループでは、自然災害による被災後の復興支援及び社会福祉に積極的に協力しています。

被災地及び貧困地域への支援活動



貧しい地域の人々へ衣服を寄贈 (広東工場)



2010年8月、中国甘肅省甘南チベット族自治州舟曲県で起きた巨大土石流災害の被災地に対しての募金支援 (広東工場)

献血活動

現代の医学では、血液に完全に代わるもの（人工血液）はまだ開発できておらず、また代替血液は開発されてはいるものの限界があるため、まだまだ人の血液が必要とされています。少しでも病気やケガをされた方が救われるよう、マブチグループ各拠点では、定期的に献血活動を実施しています。



献血活動 (台湾マブチ)



献血活動 (江蘇マブチ)

孤児院・養護施設への支援活動

江蘇マブチ、台湾マブチ、ベトナムマブチでは、定期的に、地域の一人暮らしのお年寄りや孤児院、養護施設を訪問し、介護・寄付等の支援を継続して行っています。



孤児院からの感謝状 (台湾マブチ)



訪問先孤児院の子ども達 (江蘇マブチ)

環境マネジメントシステム

マブチグループでは、全拠点で統一した環境マネジメントシステムを展開しています。

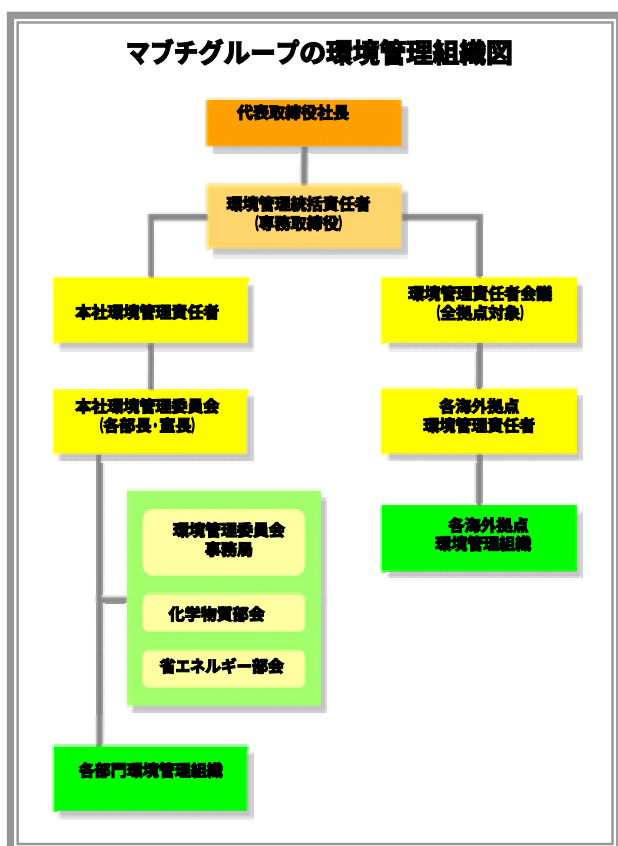
1999年12月、環境に関する国際規格である ISO14001 を本社が取得。その後、海外生産拠点においても同認証を順次取得し、2001年に当時の海外生産拠点すべての認証取得を完了しました。以降、新拠点の設立に合わせて認証を取得しています。

2008年には、本社を中心としたマブチグループとしての一括認証を取得し、全拠点で統一した環境マネジメントシステムを展開しております。

これからも環境マネジメントシステムの適切な運用と継続的改善を図っていきます。



外部監査機関による環境監査 (大連マブチ)



ISO14001初回認証取得日

事業所	認証取得時期
本社	1999/12/02
道沼マブチ	2000/12/11
東莞マブチ	2000/12/11
東莞マブチ 莞城分公司	2000/12/11
台湾マブチ	2000/12/06
高雄マブチ	2000/03/14
大連マブチ (瓦房店マブチ含む)	2000/08/17
江蘇マブチ	2000/08/10
ベトナムマブチ	2001/03/16
ダナンマブチ	2008/07/21
路東マブチ	2009/04/27

※2009年に設立いたしました鷹潭マブチは、現在ISO14001の認証取得に向けて準備中であり、この表の対象外になります。

環境基本方針

1. 地球環境に配慮した企業活動を行うための環境マネジメントシステムを確立し、継続的改善に努める。
2. 環境関連の法規制及びその他の要求事項を遵守するとともに、積極的に自主基準を設定し管理する。
3. 限りある資源を最大限有効に活用するために、省エネルギー、リサイクル及び廃棄物の減量化に積極的に取り組む。
4. 環境に負荷を与える物質は可能な限り代替物質への転換を行う。
5. 従業員の環境に対する意識の高揚を図るため、積極的な教育・広報活動を行う。
6. 環境方針は全従業員に周知するとともに、必要に応じて外部の利害関係者にも開示する。

グリーン調達

お取引様とともに

当社は、製品に使用する部材を採用するにあたり、法令、規制、お客様要求に加え、当社独自の基準を設け、これらの基準に定めた環境禁止物質を含有していないことを確認しています。下図にありますように、お取引先様には、環境活動調査表に加えて、部品・材料に環境禁止物質が含まれないことを保証する書類を提出していただいています。

お取引先様の選定にあたっては、従来より実施していた品質、コスト、納期に加え、お取引先様の各種の環境への取り組み状況も評価しています。

また、日常のお取引様とのコミュニケーションや、環境負荷物質の使用・保管状況の監査活動を積極的に行っております。これらの活動の結果、2006年度の欧州RoHS指令の施行から現在に至るまで、お客様からの環境クレームは発生しておりません。

今後も、マブチグループは環境にやさしいモーターづくりを行うために、グリーン調達活動を進めていきます。

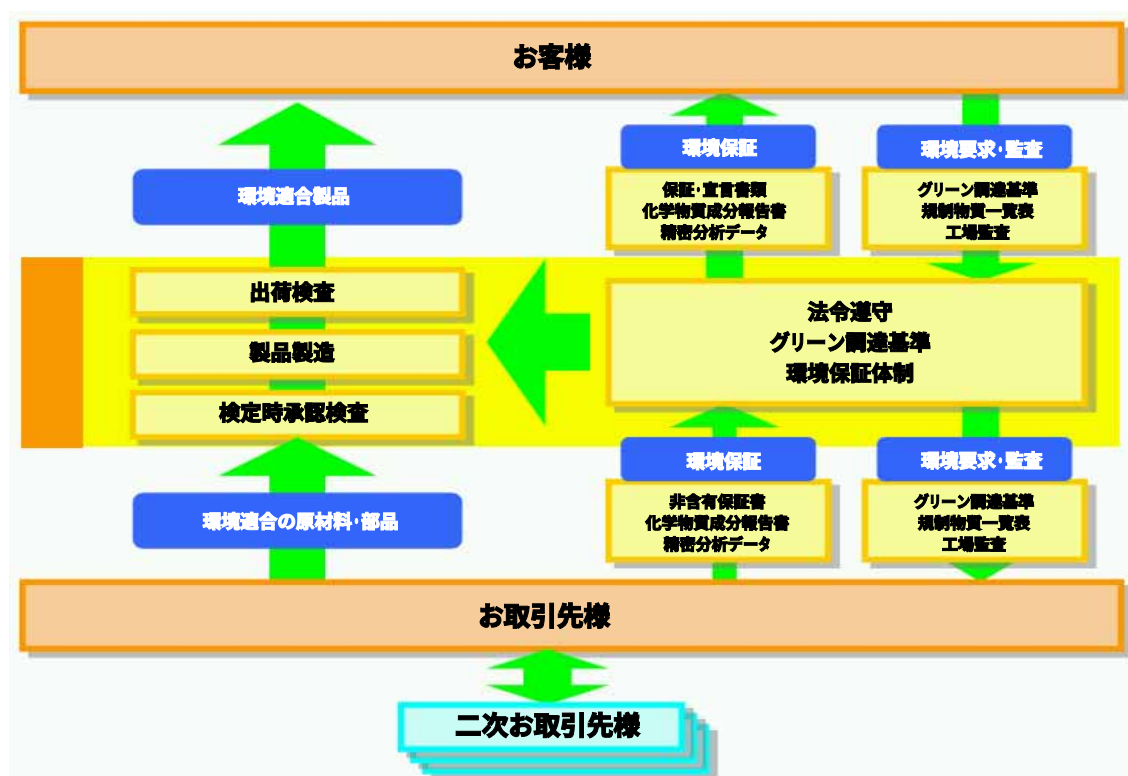


お取引先様向けグリーン調達説明会 (台湾マブチ)



社用車はエコカーを選び、制服や社内で使用する文具類においてもグリーン調達に取り組んでいます

グリーン調達フローチャート



環境に優しい製品づくり

当社は、「小型直流モーター」の専門メーカーとして、さまざまなニーズに応えながらモーターのもつ新たな可能性を追求し、市場を革新するモーターを開発・提供してきました。モーターの品質・性能の向上は当然の研究テーマですが、モーターの製造から廃棄までを通じて、いかに地球環境への負荷を少なくするかということも重要な研究テーマとしています。

省エネ型モーターの研究開発

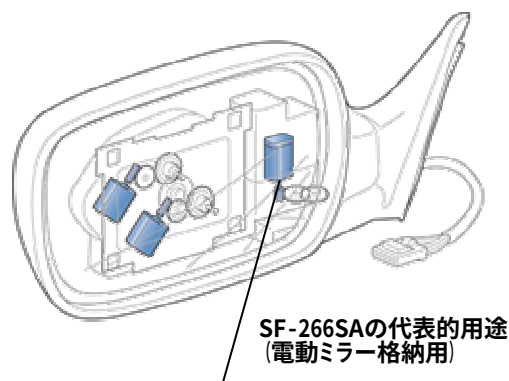
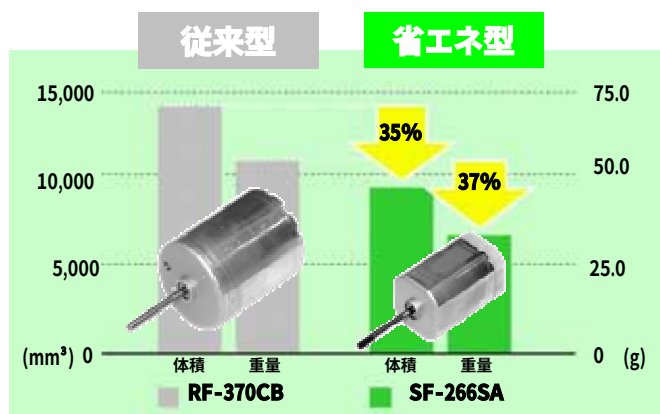
モーターの小型化により、使用する素材が少なくなり、製造時のCO₂の発生を抑制できます。また、小型化に伴い、モーター単体の軽量化も実現でき、自動車用途などに使用される際、燃費の向上にも寄与します。

当社は、1980年後半より音響・映像分野から着手して、モーターの小型化に取り組んできました。2010年度は、主に自動車電装用途の一つである電動ミラー格納用として、省エネ型モーター（SF-266SA）を量産開始しました。

この機種は当社従来の小型モーターが備えていたCO₂削減の長所を保ちながら、自動車電装分野で要求の多い電磁波環境にも配慮した低電気ノイズモーターです。また、従来型よりモーター作動音を低減させた静音モーターとなっています。

今後も、小型直流モーターの専門メーカーとして長年培ってきた、磁気回路技術、巻線技術、部品技術等を生かし、省エネ型モーターの拡充に向けて、更なる研究・開発を推進していきます。

省エネ型モーター SF-266SA



モーター運送用梱包材の適正化

生産したモーターをお客様のもとへお届けする際に、運送途中の品質を確保し、運送の効率化を図るために、ストレッチフィルムを用いた梱包を行っています。

このフィルムは、製品がお客様のもとへ届いた後には、廃棄物になってしまうため、モーター生産における「環境負荷」といえます。

江蘇マブチはこの環境負荷を低減するため、テストを重ねた結果、本来の目的・機能を損なうことなく、ストレッチフィルムの使用量を従来より年間約6tの削減に成功しました。廃棄量を減らすとともに、地球資源の節約にも寄与しています。



使用量を適正化したストレッチフィルム梱包例

生産現場での省エネに向けた取り組み

当社は、生産工場において、環境の保全と生産性の創出を同時に実現すべく、継続的に生産プロセスの効率化を実施しています。

圧縮エアは、工場での生産に幅広く使用しており、安全且つ手軽で便利なユーティリティとして確立しています。安心して使用できる使い勝手の良さから、これまでは省エネの改善活動の重要な対象とされ難い状況が続きました。

しかし、生産現場では圧縮エアのエネルギーロスに着目し、圧縮エアの使用量削減や代替化などの改善に取り組み、その活動を継続的に進めてきました。

目的志向に従ったより良い手段の選択を追求した結果、圧縮エアを使ったエアブローを別の方法に置き換えることでCO₂を削減し、省エネ効果を高めた2つの事例を紹介します。

事例① パウダー吹き飛ばし用エアブローのプロワ化

モーター回転子の絶縁皮膜を塗装する際、設備に付着したパウダーを吹き飛ばすために大量の圧縮エアを使用してきました。これを、ブロワに変更することにより、低压で大流量の空気に置き換えると、必要な衝突力を得るための消費エネルギー（電力量）が少なくて済みます。

当社の生産設備で、必要な機能を満たすためのワークに合わせたブローノズルの最適形状を探し出すことに成功し、中国工場にて量産を開始しました。今後、全生産拠点の絶縁皮膜塗装機に対して計画的に展開していきます。

一台あたりの環境効果
CO₂削減量:23.7t-CO₂/年



ブロワ本体と周辺機器

事例② ワーク冷却用エアブローの軸流ファン化

生産設備で、ワークの冷却に圧縮エアを使わず、軸流ファンを取り付けてワークの温度を測定した結果、軸流ファンでも十分に冷却が可能であることがわかりました。現在、全生産拠点へ展開を進めています。

一台あたりの環境効果
CO₂削減量:5.6t-CO₂/年



改善前:圧縮エアでワークを冷却



改善後:軸流ファンに置き換えてワークを冷却

これらの改善事例は、生産ラインに直接関わるスタッフが、自ら意識を変えることで気づきを得て検討した結果、生まれました。改善活動の第一歩に過ぎませんが、視点を変えた全員参加の意識改革が環境保全を加速させ、同時に生産効率も向上するという良い代表例となり、今後の活動につながるものと考えています。



植林活動を行う広東マブチのボランティア

地球環境保全のためのボランティア活動

マブチグループでは、「地球は一つ。大切な地球を守る環境保全は、すべての地域の人々の義務」と考え、それぞれの拠点所在地域での環境保全活動を継続して企画、実施しています。



工場周辺地域の清掃活動 (広東工場)



工場周辺の植林活動 (東莞マブチ)



工場周辺地域の清掃活動 (大連マブチ)



工場周辺地域の清掃活動 (台湾マブチ)

社内緑化推進によるCO₂排出量削減の取り組み

マブチグループの各工場では、樹木及び各種植物によるCO₂の吸収作用を重視し、社内緑化に長年取り組んでいます。これらの活動は、環境を保全するとともに、CO₂の吸収、空気湿度の調整、地下水浄化など地球環境保護にも貢献しています。

大連マブチの緑化活動

大連マブチ（瓦房店マブチも含む）工場及び社員寮では、設立時から緑化活動を推進しています。

現在、大連マブチ敷地内に植えた樹木は1000株以上、芝生は8000㎡以上あります。

これらの実績により、中国遼寧省政府より、『ガーデン式工場』の表彰を受けました。



緑豊かな大連マブチの工場風景

広東工場の緑化活動



工場棟屋上の緑化



工場棟外壁のつた性植物

広東工場では、2009年度から可能な限り屋上緑化に取り組んでいます。2010年には屋上緑化の他に工場棟外壁につた性植物を植えました。これらの対策により、夏の強い日光を遮り、工場内の冷房に使用する電力の削減に寄与するとともに、工場の景観も改善できました。

ベトナムマブチの緑化活動



工場敷地内緑化

ベトナムマブチは「花や緑のキャンパスの会社」を環境活動スローガンとして掲げて、社員一同で社内緑化に取り組んでいます。美しい景観とともに、社員の環境意識や帰属意識も向上させています。



環境を考える標語・ポスター作品コンテスト

＜2010年度受賞作品＞

標語部門2位の作品 「コピー少なく、プリント少なく、環境保護を心に印字しよう」
「グリーンモーターが回れば、緑の夢が動き出す！」



別受污染
別以貪婪
真心誠意去行動
保護環境
愛護好我們的地球家園
別點滴瀝瀝地
為創美好的未來！

保護環境，人人有責
——張家口警區

環境活動で活躍した社員への表彰

大連マブチ（瓦房店マブチ含む）では、年末の全社表彰大会にて、環境改善に著しい実績を挙げた部門及び個人に対し、総経理から「環境改善総経理特別賞」を授与しています。

この賞は総経理が環境保全活動を重視し、その活動を積極的に推進させるために、新設したものです。



大連マブチ総経理による表彰



横断幕にサインをする社員

地域住民とともに環境活動への参加

広東工場社員は、地球温暖化防止を広く呼びかけ、一斉に照明を消すイベント「アースアワー（Earth Hour）」に賛同し、参加しています。より多くの方に参加していただくため、2010年3月、地元の「虎英公園」にて活動内容の宣伝及び参加者サインイベントを開催しました。社員をはじめ多くの近隣住民の方々にも呼びかけ、参加いただきました。

拠点の社会環境報告書の発行

大連マブチでは、毎年社内の環境活動における活動実績を報告する「持続可能な発展報告書」、企業のCSR活動に関する活動実績を報告する「社会責任報告書」を作成、発行しています。



「社会責任報告書」(左)

「持続可能な発展報告書」(右)

リスク管理の取り組み

環境緊急事態の発生を含むリスク管理のため、緊急時対応の教育、訓練を継続的に実施しています。これらの教育、訓練により、社員の安全、環境汚染の防止、会社財産の保全に努めています。



消防訓練 (本社)



消防訓練 (広島工場)



人命救助模擬訓練 (本社)



環境緊急事態対応教育 (広島工場)



環境緊急事態対応の模擬訓練 (本社)



化学物質漏洩時の対応訓練 (広島工場)

その他の環境報告

土壌浄化について

2002年、自主調査により本社敷地内の一部の土壌から環境汚染物質が検出されたため、管轄行政（松戸市）に汚染状況を届け、土壌の浄化作業を開始しました。

2004年には、子会社であったマブチ精工株式会社の工場閉鎖に伴う土壌汚染状況の調査からも環境汚染物質が検出されたため、管轄行政（群馬県）に届けるとともに、土壌の浄化作業を開始しました。

上記2箇所における高濃度汚染域の浄化は完了しており、現在は低濃度の汚染域の浄化を継続しています。

2010年、浄化の効果として、各測定値に改善が見られ、現在の浄化方法が有効であると判断し、継続実施しています。2010年の浄化実績及び今後の方針について、

松戸市及び群馬県の行政機関に報告し了承を得ることができました。これからも引き続き着実に汚染浄化に取り組んで参ります。

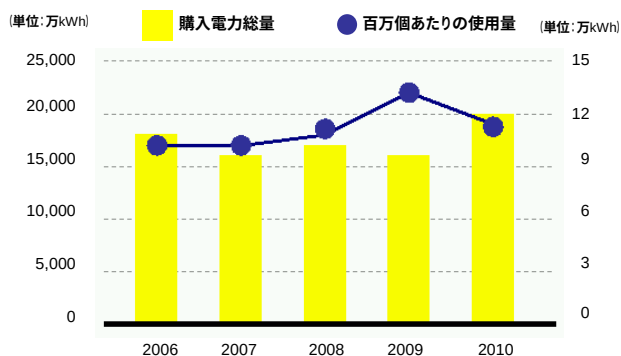


本社敷地内に設置された土壌浄化装置

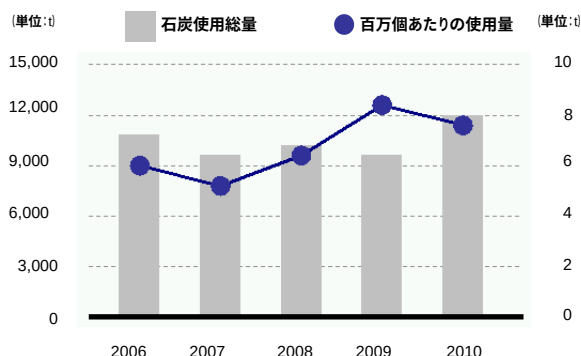
環境データ

マブチグループの環境データを下記の通り報告いたします。（統計対象は、本社及び主要海外拠点としております）

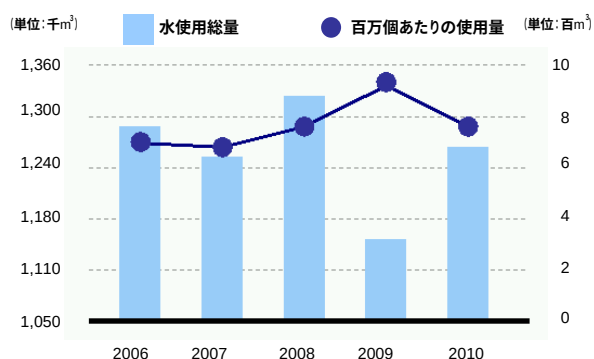
購入電力使用量



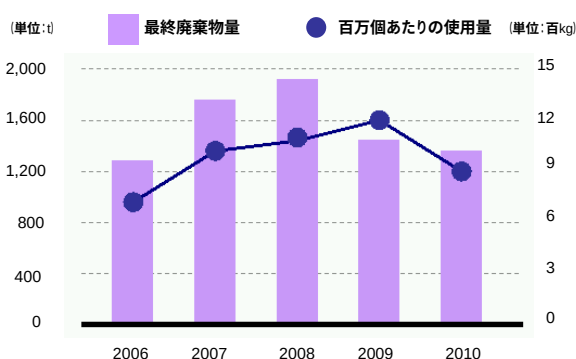
石炭使用量



水使用量



最終廃棄物量





お問い合わせ

マブチモーター株式会社

管理本部 総務部

〒270-2280

千葉県松戸市松飛台430

TEL:047-710-1224

FAX:047-710-1141

E-Mail:kankyo@mabuchi-motor.co.jp

<http://www.mabuchi-motor.co.jp>